

湯浅を訪ねて

吉田 恵子



稲むらの火の館（濱口梧陵記念館・津波防災教育センター）

4月10日（土）春の一日、天王寺、和歌山経由で紀州湯浅へ到着です。早速ボランティアの方々の案内で「濱口梧陵」の生誕地、広川町見学です。

海の前「感恩碑」と「稲むらの火」の説明を受けます。松並木の続く高さ5m、根幅20m、延長600mの「広村堤防」を歩き、この堤防の存在の大きさを知りました。

梧陵の開設した私塾「耐久社」では、古い写真と現・耐久中学校生徒の礼儀正しい態度にほっとしました。町内道路の角々に「避難道」の矢印と波の高さ表示

を見乍ら、「稲むらの火の館」に着きました。ヤマサ醤油の事業の外、人々の為にと功績や教訓、人柄等々の展示を見学しました。3D映像シアターで「安政の大津波」の迫力あるドラマに圧倒されました。

現在では、地震津波等の情報通信分析と新しい技術はどんどん進んでいます。災害は忘れた頃に来ると言われるように、被害を最小限に、防災に対する取り組みを今更乍ら実感しました。

楽しみのお昼は旬の「しらす丼」、珍しい「麴アイス」、名産の「三宝柑」「早なれ寿司」「金山寺味噌」等々美味しく頂きました。午後は湯浅町の散策。古くから熊野詣での街道と宿所として栄え、町並みも伝統的建造物がよく保存されています。京都との繋がりもあり呉服、和菓子や漁網穀類、蜜柑肥料の商業地でした。

中でも「湯浅醤油」を代表とする醸造町として有名です。約780年前中国より伝来の「経山寺味噌」から出来た調味料で、最盛期には90軒もの醤油屋があったそうです。約470年前より商品として各地へ出荷開始されています。職人蔵での仕込み用の木製の道具類にはびっくりしました。

保存地区では「深専寺」「福蔵寺」「本勝寺」等お寺も多く残り、「戒湯」「麴屋」「薬屋」とタイムスリップしました。民家の軒先にミニチュアの民具道具、装飾品等を展示した「せいろミュージアム」「吊り行灯」「辻行燈」も趣があり印象深い物でした。再度ゆっくり訪れたい町並みでした。

いつも乍らボランティアの方々、企画を世話して下さいました幹事の皆様たちにお礼を申し上げます。有難うございました。



天保12年創業の醤油老舗「角長」の職人蔵

「野田藤と福島区の史跡を訪れる見学会」に参画して

末廣 訂

4月25日(日)晴の昼さがり、福島区は野田、玉川にある「野田城跡」碑前に60名を超える会員が集まり、いよいよ野田藤を訪ね、蜷川・堂島川に沿って福島区の名所旧跡から最後は西区、肥後橋にある「ヒツツパタゴの木」までのコースに向かって歩み出しました。

今回は歴博友の会幹事の清水さんから依頼を受け、福島区歴史研究会がご案内することになりました。

当日、我々は見学場所の説明書とガイドマップ(江戸期、明治40年、そして現在の福島、梅田、堂島周辺の地図)を事前に準備して、参加者に配布させていただきました。

案内役は当会の会員で民俗学を研究されている田野さんを中心に、そしてポイントガイドとして4名配置して万全を期しましたが、何分にも初めての経験で失敗の連続で、よい経験になりました。

まず、初めに私、事務局から簡単に福島区の歴史を説明させていただきました。福島区の名前は、菅原道真が太宰府に流された時に、この地に立ち寄り「餓鬼島」と言われた当時の名前を「福島」という名前をつけたという伝承があり、今でも福島「上中下の3天神」があります。また、福島区は歴史がある割には区が誕生したのは比較的新しく昭和18年で、区の花は「のだふじ」です。福沢諭吉、田辺聖子の生誕の地、松下幸之助創業の地として人々に知られています。

コースの順に、極楽寺、野田恵美須神社、円満寺と戦国時代、織田勢と三好三人衆とが対峙した中心地に入り、そして本願寺第10代証如上人が襲われ、21人の門徒衆が討死にした碑が建っている地域を散策した後、野田藤の春日神社に到着しました。

その昔、吉野の桜、野田の藤、高尾の紅葉と詠われ、この地は足利幕府2代将軍、足利義詮や豊臣秀吉が見学に来た藤の名所ですが、何度かの戦火で花は絶えてしまいましたが、藤家や地元の方々の努力で区の花として返り咲きました。

藤 三郎さんの藤にまつわる話はもう1度じっくりお聞きしたいものです。

さて、明治42年の北の大火の廃材で埋められてしまった「蜷川」沿いには歌舞伎や文楽の場面に出てくる史跡が一杯です。「天下茶屋の仇討ち」の林伊織の墓がある「西善寺」、源義経が梶原景時と論争した「逆櫓の松碑」、近松門左衛門の代表作「曾根崎心中」で醤油屋の手代、徳兵衛と堂島新地の遊女、お初が渡った「梅田橋」そして今回は訪問できなかったが、五大力恋緘(恋のふうじめ)の遊女「菊野」の墓がある「浄祐寺」等々ある。また堂島川沿いには、江戸時代の蔵屋敷跡、阪大病院跡の「ほたるまち」や大阪検察庁の建物と年々町の風景が変わってきているが、昔の風情を想像しながら歩くのも楽しいものです。

なお、「福島区歴史研究会」でホームページも開設しましたので興味のある方はご覧ください。

福島区には今回歩いた以外に、海老江や浦江という歴史がある神社や家並み、祭りが残っており、皆様の再来を会員一同お待ちしております。

福島区歴史研究会 事務局長

平成22年6月19日記



「野田城址」の碑がたつ極楽寺



「みんなの」博物館

大阪歴史博物館 副館長 森永 公子

「大阪歴史博物館副館長兼総務課長を命ず」平成22年4月1日にこの辞令をいただいて思わず、もちろん心の中ですが、「私が、ですか?」。20年以上も前に教育委員会にいましたが、今やすっかり浦島太郎。セピア色になった記憶をたどり、博物館法やら条例やら事業計画書やらを縦横斜めと読み、館内を歩いては展示や動線を覚える日々の始まりでした。

そうこうするうちに少しずつ歴博の特長が自分なりに見えてきて、常設展結構すごい、地下遺構、ハンズオン、調査研究、さまざまな事業、こんなこともやってたという気付きが多くありました。すると次に、行ったけれどあんまりおもしろくなかった、感じが悪かったミュージアムが思い出され、原因は何だったんだろうと、その時は「いまいちだったよね」で、いざ自分がそう言われる立場になってみるとちゃんと分析しなくっちゃ、つまりは「そんなことは歴博ではない」。あれこれ頭をめぐらし、尽きるところは「来館者の側に立っていない」見せてあげる・教えてやる・気に入らないなら来てもらわなくてもよい、いわゆる上からの視線。博物館の人はきっと「そんなことはない」と言うでしょう。でもなんとなく感じる〇〇好きのための〇〇好きによる、雰囲気。

さて、私の目指す歴史博物館は「私が行きたい、行ってよかった博物館」だと今は思っています。歴史にとりたてて知識や関心があるわけではない私が、「なかなかよかったよ」と知人や家族に言うような、押しつけがなく、居心地のよい、でも知りたいことがわかる、展示されたものの後ろにある調査研究と洞察。お客様には心からのホスピタリティ。市民の方と一緒に調べたり考えたりできる開かれた博物館。「みんなの」博物館にしたいという思いで、できることから一歩ずつ地道にと思っています。皆さんはこんな博物館においでいただけますか。

学 芸 員 紹 介

～ 八 木 滋 ～

私は、江戸時代の日本社会の歴史を勉強しています。博物館では、江戸時代の大阪の経済や流通に関すること、また博物館資料としては古文書や経済用具などを担当しています。特別展では、これまで「よみがえる銅」「水都遊覧」などを担当してきました。今回は「新淀川100年 水都大阪と淀川」を担当しました。

私が生まれ育った環境からすると、川と言えば当時はドブ川であった道頓堀川でした。台風などが来ると、子ども心にこの川の水があふれて家まで押し寄せてきたら嫌だなと思っていた記憶があります。また、小学校では大和川の付け替えのことを習うので、中甚兵衛の名前とともに記憶に残っています。大学も大和川のそばだったので、これまであまり淀川を意識することはありませんでした。新淀川という名称は子どものころから知っていたと思いますが、新淀川ができた時期を正確に知ったのは、大阪の歴史の勉強をし始めてからだと思います。

淀川といえば、京都や神戸に行くときに電車で渡る大きな川で、大阪と異界を隔てる川という印象が強いのです。今回の展示を担当したことで、いままであまり行ったことのなかった淀川沿いをたくさん歩きました。それによってこれまで私の中では印象の薄かった大阪市北部のイメージがつかめてきました。歴史の勉強は机に向かうだけでもできますが、過去の風景は消え去っていても、地形や道・建物・石碑などの痕跡をたどることで、文字に書かれたことをよりリアルに感じることができると思います。

川の歴史といっても、川に関わる人びとの歴史を明らかにしていくことが重要だと思っています。私がおもな史料として取り扱っている古文書は、視覚的なことはあまり分かりませんが、人と人との関係つまり社会を知るには格好の史料なのです。また古文書に書かれたことの字面だけを読んでいくのではなく、そこに書かれたことが頭の中できちんと想像できるまで読みこんでいきます。200～300年前に日本語で書かれたふつうの文章と苦闘することが私たちの歴史研究なのです。



連載

「浪花百景」

サ ナ タ ヤマ
～佐奈田山

サン コウ ミヤ
～三光宮～

第13回

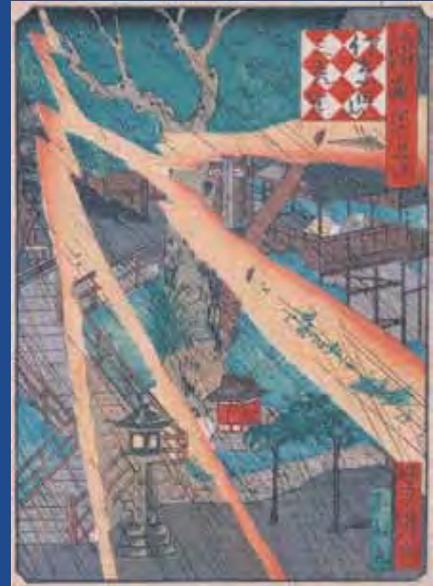
千倉 康由

大阪市天王寺区玉造本町所在の三光神社は大阪城南方の丘陵（上町台地）真田山に鎮座し、昔は姫山神社と称したが、今では三光神社として知られています。創立は反正天皇の御宇と言えられ、創建以後神職として奉仕された武内宿弥の末裔武川氏（八十六代）にして今に至るとのことです。

当神社は古来より日本全国で唯一の中風除けの神として広く知られ、毎年六月一日を祈願の初日と定め七日間の神事が行われております。また境内には、大坂冬の陣で豊臣方の智将真田幸村が築いた真田出丸の故地と伝えられ、「真田の抜穴」と称される横穴が遺る。その前には、真田幸村の銅像が立てられ、春には桜の名所としても知られております。



現在の三光神社



特別展「お守り刀展覧会」

「お守り刀展覧会」は、現代刀匠たちの新作刀などのコンクール展ですが、今回は、コンクールで選ばれた約40件の現代刀に加え、国宝3件、重要文化財4件、重要美術品1件を含む、鎌倉～江戸時代の代表的な日本刀約20件、さらに大阪の地で約50年にわたり刀装具制作および文化財修復に携わった阪井俊政氏の代表作品などをあわせて展示します。古今の名刀による競演をぜひお楽しみください。



【国宝】 太刀 銘 筑州住左(ちくしゅうじゆうさ) 南北朝時代(14世紀)



【国宝】 刀 名物 中務正宗(なかつかさまきむね) 鎌倉時代後期(14世紀)

◎会期／平成22年11月27日(土)～
12月26日(日)

◎会場／大阪歴史博物館 6階 特別展示室

◎主催／大阪歴史博物館、全日本刀匠会、
備前長船刀剣博物館

◎後援／文化庁、公益財団法人日本刀文化振興協会、
大阪府、大阪府教育委員会

◎協賛／日立金属株式会社
※会員証提示で1回入場可。

編集 後記

今年は例年のない猛暑だったせいでしょうか、「歴友」の編集が一向に進まず、結局、秋の号と合併号ということになってしまいました。

ところで、「行事で行ってきたところのレポートばかりでは、誌面がつまらない」として誌面改革の必要性が指摘されています。今回の副館長や学芸員の紹介記事などはそうした考えによるものです。会員の皆様のご意見をお待ちしています。(積山)